科目コード	和文：	教養ゼミナールⅡ ー現代ドイツの制度と社会ー	2期	火	5-6
501－0530	英文：	Seminar for Culture II : Society and Institutions in Contemporary Germany	2単位	時間	

受講対象学生		授業の形式	
履修前提授業科目名	別にないが、ドイツ語関連講義の参加を勧めます。	密接な関係授業科目名	ドイツ語関連講義
備考	20名以内		

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
ウィルヘルム・ヨハネス・ハルミ	欧米文化	教育文化学部3-230/889-2687			

オフィスアワー　曜日及び時間：　場所：

授業の目的及び到達目標

1．目　的
基本的な学術的理論と適切な情報採取方法を身につけながら現代ドイツの制度と社会についてより詳しい知識を得て、それを学期末の発表会で発表する。
2．到達目標
独自で図書館などを利用してテーマを準備する能力を身につける。
基本的な学術的理論と適切な情報採取方法を身につけながら現代ドイツの制度と社会についてより詳しい知識を得る。

カリキュラム上の位置付け

一～二年生向けの入門ゼミナールです。
基本的な学術的理論と適切な情報採取方法を身につけます。

授業の概要と進行予定及び進め方

ドイツと日本は長い交流史を誇るだけではなく、歴史的にも数多い接点や似た部分がある。
これにより、ドイツという外国を通して日本を見直すことは大変有意義である。
大学では「教科書」を使うよりも独自の情報採集手段を活かすのが重要であり、まずは、どのように適切な情報が入手できるかを練習します。何が適切であるかは、ある程度の学術理論の理解が必要となる。セミナールではこれらを考察・特訓しながら学期末の発表会まで磨いていく。
発表するテーマは各自で掘り出していきますが、かなり集中してテーマに取りかかる必要がある。そのため、内容的な部分をとらえる手段として、坂井榮八郎の『ドイツ史10講』（岩波新書826）を読んでいく。
この他、映像資料なども教材として活かしていく。

授業に関連するキーワード

成績評価の方法及び合否判定基準

出席、授業参加、学期末の発表など。

教科書・参考書等

参加者に以下の文献などからコピーを配りますので購入は不要です。
斎藤晢, 八林秀一, 鎗田英三（編）『20世紀ドイツの光と影：歴史から見た経済と社会』東京：芦書房、2005.
ヴォルフガング・イェーガー, クリスティーネ・カイツ（編著）『ドイツの歴史：ドイツ高校歴史教科書, 現代史.』小倉正宏, 永末和子訳. 明石書店, 2006（世界の教科書シリーズ：14）.
坂井榮八郎『ドイツ史10講』、東京：岩波書店、2003（岩波新書826).
粟屋憲太郎、田中宏、三島憲一、広渡清吾、望田幸男、山口定『戦争責任・戦後責任：日本とドイツはどう違うか』、東京：朝日新聞社、1994（朝日選書；506).
三島憲一『戦後ドイツ：その知的歴史』、東京：岩波書店、1991（岩波新書158).
阿部謹也『物語 ドイツの歴史ードイツ的とはなにか』、東京：中央公論社、1998（中公新書1420）

科目コード	和文：	法律を考える A（1 期）／B（2 期） ―法学―	1 期	金	3-4
501－0013（A） 501－0014（B）	英文：	Jurisprudence A / B : Outline of Civil Law	2 期	金	5-6
			2 単位	30 時間	選択

受講対象学生	全	授業の形式	講義
履修前提授業科目名		密接な関係授業科目名	日本国憲法 B・C、民法 I
備考			

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
西台 満	政策科学	3-328、889-2659			

オフィスアワー　曜日及び時間：火、 4：10～5：40（1 期）　場 所：西台研究室（3-328）

授業の目的及び到達目標

1．目 的
先ず一般教育（General Education＝本学では教養基礎と呼んでいる）の目的としては，生まれてから現在まで、親や学校の教師、本・新聞・テレビなどから沢山の知識・考えを受け取り、頭にkeepしているわけだが、大学に入ったのをいいきっかけにして、それらを一旦全部 clear する。それから、自分が正しいと納得できるものだけを一つづつ、もう一回頭に収納してゆく。この作業を「自我の確立」と言う。

2．到達目標
自我を確立するためには、これまで「当然」「当たり前」と思って全然疑わなかったことでも、改めて「本当だろうか？」と疑うこと、即ち批判力が必要になってくる。本講では主に民法を題材として、多くの人が正しいと思っていることについて、「実はそうではないんだ」という例を示す。

カリキュラム上の位置付け

最も「一般教育らしい」科目である。これを受けた人と受けない人とでは、専門に入ってから大きな差が出てくると思われる。

授業の概要と進行予定及び進め方

1　高校までの「勉強」と、大学でする「学問」との違い

2　時代の流れ―工業化社会から情報化時代へ―

3　法的安定性と具体的妥当性

4　物権と債権

5　物権の排他性と公示制度

6　動産の公示―占有―

7　不動産の公示―登記―

8　債務不履行と不法行為

9　挙証責任

10　公害訴訟

11　証明と疎明

12　消費者金融

授業に関連するキーワード

債務不履行	不法行為	登　記
公　害	挙証責任	超過利息
証　明		

成績評価の方法及び合否判定基準

（1 期） 7 月中旬の一回の試験で。
但し、出席の良し悪しを成績に加味するため、出席を取る。

（2 期） 1 月下旬の一回の試験で。
但し、出席の良し悪しを成績に加味するために、出席を取る。

教科書・参考書等

教科書として、
西台満著『理論民法』高文堂出版社（2,000円）

科目コード	和文：	日本国憲法Ａ－自分の憲法観が持てるように－	2期	金	7-8
501－0041	英文：	The Constitution of Japan	2単位	30時間	選択

受講対象学生	全学部1～4年	授業の形式	講義
履修前提授業科目名	特になし	密接な関係授業科目名	くらしと法－教養法学－，教養ゼミナールII－人権の現代的諸相－
備考			

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
池村好道	教育文化・地域科学	教文3－330・2661			

オフィスアワー　曜日及び時間：月曜日　18：00～19：00　場所：教文3－330

授業の目的及び到達目標

1．目的
統治機構を中心とした日本国憲法の基礎的理解
2．到達目標
1）憲法上の基本的な諸概念を説明できる。
2）日本国憲法の基本構造を説明できる。
3）各種の憲法問題の基礎を的確に把握できる。

カリキュラム上の位置付け

本学の教育目標である「社会の変化に柔軟に適応できる幅広い教養」の涵養のための授業科目の一つ。
本授業科目は統治機構に主眼がおかれており，「人権の現代的諸相」の履修と合わせて，憲法の一層の理解が可能となる。
目的・主題別としては、「学問の体系」を重視する。

授業の概要と進行予定及び進め方

・憲法の理念と現実という問題を意識しながら，比較憲法的視点を加味して，統治機構を中心に日本国憲法の入門的解説を行う。
進行予定は以下の通り。
1～2回．国民主権と天皇制：天皇の地位，天皇の行為
3～4回．平和主義：9条の解釈
5～6回．国会：両院制，参議院の存在理由など
7～8回．内閣：議院内閣制など
9～10回．裁判所：司法権の観念と帰属など
11回．地方自治：「地方自治の本旨」など
12～14回．基本権：種類，享有主体など
15回．試験実施

・講義のなかで，憲法の条文をはじめ「六法」をしばしば参照する。
・教育文化学部学校教育課程以外の学生については，受講者の人数制限を行うことがある。

授業に関連するキーワード

憲法	統治機構	象徴
戦争の放棄	衆議院の解散	司法権の独立
外国人の人権		

成績評価の方法及び合否判定基準

1）中間レポート（30点）・・・到達目標1，2
2）期末試験（70点）・・・・・　〃　1，2，3

教科書・参考書等

教科書は使用しない。プリントを配付する。参考文献は適宜示す。
最も小型のものでよいから、事前に「六法」を用意しておくこと。

科目コード	和文：	日本国憲法B（1期）／C（2期）ー自分の憲法観が持てるようにー	1期	木	5-6
501－0042（B） 501－0043（C）	英文：	The Constitution of Japan B / C	2期	木	3-4
			2単位	30時間	選択

受講対象学生	全学部　1～3年	授業の形式	講義
履修前提授業科目名		密接な関係授業科目名	法律を考えるA・B
備考			

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
西台　満	政策科学	3-328、889-2659			

オフィスアワー　曜日及び時間：火、　4：10～5：40　　場　所：西台研究室（3-328）

授業の目的及び到達目標

1．目　的
自分自身の憲法観を構築してもらうこと。学校で教科書を読んだり教師から聞いたり、テレビや新聞から得た知識は、どこまでも他人のものであって君のものではない。ひょっとしたら騙されているのかも知れない。そういうわけで、これまで皆さんの頭の中に詰め込まれてきた知識を一旦フォーマット（初期化＝パソコン用語で、新しいデータを書き込めるように、古いデータを全部消去すること）するような講義をするので、後は自分が正しいと思う考えを一つ一つ選択し、積み上げて行って欲しい。

2．到達目標
（1）憲法学界の多数説が中学・高校の教科書に取り入れられ、それが皆の頭に刷り込まれ、国民の常識のようになっている。そういう憲法観のどこがおかしいのか？　主要な問題を取り上げて、批判する。
（2）たとえ常識みたいに思われていることであっても、自分が納得できないなら納得できるまでとことん考える、という思考力・批判力を鍛える。

カリキュラム上の位置付け

マスコミや他人の考えに流されたりせず自分の考えで行動できる人、あるいは理科系なら発明・発見ができるような人、そういう人には批判的思考力が絶対に必要である。本講は、憲法を題材にして、そういう能力を引き出そうとする。

授業の概要と進行予定及び進め方

1．憲法の名宛人

2．基本的人権と「法律の留保」

3．天皇制の意義と、国事行為に関する解釈

4．自由と平等の関係

5．「法の下の平等」の意義と法律制定の目的

6．選挙と「法の下の平等」

7．政教分離のあり方

8．三権分立

9．衆議院の解散

10．地方自治を殺す憲法解釈

授業に関連するキーワード

民主主義	法律の留保	地方自治
衆議院の解散	法治主義	官僚主権
一票の重み		

成績評価の方法及び合否判定基準

（1期）7月下旬の一回の試験で評価する。
但し、出席の良し悪しを成績に加味するために、毎回出席を取る。

（2期）1月下旬の一回の試験で評価する。
出席の良し悪しも考慮するため、毎回出席を取る。

教科書・参考書等

教科書として、
西台満著『日本国憲法原論』高文堂出版社（2,667円）

科目コード	和文：	現代社会と経済Ⅰ A(1期)／B(2期) ―近代経済学入門―	1期	木	3-4
501－0103（A） 501－0104（B）	英文：	Modern World and Economy I A / B: Introduction to Economics	2期	木	3-4
			2単位	30時間	選択

受講対象学生	全学部	授業の形式	講義
履修前提授業科目名	特になし	密接な関係授業科目名	特になし
備考			

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
島．澤　諭	教育文化学部	教文3-326・2657			

オフィスアワー　曜日及び時間：木曜 12：00-13：00　場　所：教文3-326

授業の目的及び到達目標

1．目　的
日常の経済現象の背後にあるメカニズムを理解する。
2．到達目標
経済学の基礎を身に付ける。
経済学を現実経済に応用できる。
経済現象を説明できる。

カリキュラム上の位置付け

経済学としての方法論についての講義を通じて、経済学的なものの見方を修得する。

授業の概要と進行予定及び進め方

この授業では、わが国では歴史的経緯から「近代経済学」と呼ばれているグローバルスタンダードな経済学を使ってさまざまな日常問題(経済・社会・政治)を分析することで、高度に抽象化されている経済理論の概要を紹介します。

授業に関連するキーワード

ミクロ経済学	マクロ経済学	

成績評価の方法及び合否判定基準

期末に実施する試験により行う。追試験・再試験は実施しない。

教科書・参考書等

教科書は使用しない。

科目コード	和文：	現代社会と経済Ⅱ A（1期）／B（2期） ―現代社会と経済学―	1期	金	3-4
501－0113（A） 501－0114（B）	英文：	Modern World and Economy II A / B : Contemporary Society and Economics	2期	金	1-2
			2単位	30時間	選択

受講対象学生	全学部1～3年	授業の形式	講義
履修前提授業科目名		密接な関係授業科目名	
備考			

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
小林正雄	教育文化学部	教文3-327・2658			

オフィスアワー　曜日及び時間：金　16：30～17：30　　場　所：教文3-327（電話：889-2658）

授業の目的及び到達目標

1．目　的
経済学（社会科学）の見方・考え方を知り，現代社会をトータルに見る眼を養う。
2．到達目標
やがて進んでいくそれぞれの専門分野（教育，経済・法などの社会領域，医療，技術等）について，どのような角度から見ればいいかを身につける。

カリキュラム上の位置付け

社会・歴史を科学的に考察するための科目の一つであるが，とくに地域科学課程の学生は，専門教育（日本経済論など）の基礎として履修しておくことが望ましい。（「現代社会と経済学」は，同一授業内容ゆえ，A・Bのいずれかを選択し履修すること。）

授業の概要と進行予定及び進め方

1～2．経済学の面白さ－“発展段階論”とその意義－
3～4．“三段階論”（原理論・発展段階論・現実分析）考
5～8．純粋資本主義と原理論
　(1)純粋資本主義とはなにか
　(2)純粋資本主義と原理論（景気循環論）
9～13．“発展段階論”の論理
　(1)資本主義の発展段階と構成要素
　(2)「20世紀システム」考
　(3)「21世紀システム」考
14～15．現実分析：日本経済－20世紀から21世紀へ－

授業に関連するキーワード

三段階論	原理論	発展段階論
現実分析		

成績評価の方法及び合否判定基準

試験あるいはレポートを中心に，出欠状況を加味して，総合的に評価する。

教科書・参考書等

使用の予定

科目コード	和文：	現代社会と経済Ⅲ ーマーケティングと現代社会ー	2期	水	3-4
501－0120	英文：	Modern Society and Economy III : Introduction to Marketing	2単位	30時間	選択

受講対象学生	全学部・全学年	授業の形式	講義・学生参加型
履修前提授業科目名		密接な関係授業科目名	消費者行動論、消費者問題論
備考			

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
天野 恵美子	教育文化学部・地域科学課程・生活者科学講座	018-889-2554			

オフィスアワー　曜日及び時間：木曜７・８時限　場所：教育文化１号館306Ａ

授業の目的及び到達目標

1．目　的
1) 国内外の様々なマーケティング事例を通して、マーケティングに関する基本的な概念や理論を学ぶ
2) 消費者ニーズや社会の変化に連動して展開される現代のマーケティング戦略の多様性・多面性についての知識を身に付ける
3) 現代社会におけるマーケティングの役割と意義、社会・消費生活への影響について理解を深める
2．到達目標
1) マーケティングの基本的枠組みや用語を説明できる
2) 企業の社会的責任（ＣＳＲ）とマーケティング活動の関係について説明できる
3) 現代社会におけるマーケティングの役割や影響、消費生活との関わりについて説明できる

カリキュラム上の位置付け

目的・主題別科目の目標の「(2)学問の体系」を重視する

授業の概要と進行予定及び進め方

第１回　ガイダンス
第２回　マーケティングとは何か、マーケティングコンセプトの変遷
第３回－第７回　マーケティングの展開
　１）製品戦略
　２）価格戦略
　３）流通戦略
　４）プロモーション戦略
第８回　マーケティングの国際化（１）
第９回　マーケティングの国際化（２）
第10回　マーケティングの新潮流（１）
第11回　マーケティングの新潮流（２）
第12回　マーケティングの新潮流（３）
第13回　企業の社会的責任（ＣＳＲ）とマーケティング
第14回　学生レポートの発表および総括
第15回　試験

・講義およびケース・スタディの複合型授業
(講義＋関連VTR視聴という授業形式により、マーケティングの理論と実践の融合を図る)

・授業開始時に小テスト、授業内小課題およびグループ活動があるため、積極的な参加・出席が望まれる

授業に関連するキーワード

マーケティング	社　会	消費者
企　業	ＣＳＲ	

成績評価の方法及び合否判定基準

・ レポート課題および発表・・・・40%　(到達目標３)
・ 最終試験・・・40%　(到達目標１・2・３)
・ 授業内での課題・・・・20%　(到達目標１・３)

上記3点による総合評価　(最終試験の受験は単位取得の必須条件となる)

教科書・参考書等

教科書
・ 恩蔵直人（2004)『経営学入門シリーズ・マーケティング』日本経済新聞社。

参考書
・ 石井淳蔵・栗木契・嶋口充輝・余田拓郎（2004)『マーケティング入門』日本経済新聞社。

科目コード	和文：	日本と諸外国の政治ⅡＢ－比較政治－	2期	金	3-4
501－0174	英文：	Politics in Japan and Foreign Countries II B : Comparative Politics	2単位	時間	選択

受講対象学生	全学部1～3年次	授業の形式	講義
履修前提授業科目名		密接な関係授業科目名	
備考			

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
中村　裕	教育文化学部				

オフィスアワー　曜日及び時間：火16：00-17：00　場　所：教文3-332

授業の目的及び到達目標

1．目　的
現在の日本とロシアの政治を比較することによって、民主主義、政治そのものについての基本的理解力を身につける。
2．到達目標
1．政治の比較のためには、どのような要因を検討することが必要であるのかについて理解　する。
2．体制転換、改革の具体的な諸相について理解する。
3．リーダーシップ、国民的合意、民主主義等について具体的に論じるための力をつける。

カリキュラム上の位置付け

社会科学入門

授業の概要と進行予定及び進め方

1．大統領制と議院内閣制
2．社会主義から資本主義への体制転換、新自由主義に基づく政治・経済改革
3．福祉国家体制と社会主義
4．新保守主義の政権に関する考察
5．政権と国民的支持
［戦後自民党の政治、利益誘導政治、自民党執行部と派閥、政治家と官僚、新自由主義の改革］
5．ペレストロイカ、エリツィン政権、プーチン政権に関する考察
［ソ連邦の崩壊、ロシアにおける民主化と市場改革、大統領と議会、実業家と政界］
6．最後の時間に試験を実施

授業に関連するキーワード

リーダーシップ	国民的人気	変動期
大統領制	議院内閣制	政権党
派閥		

成績評価の方法及び合否判定基準

最後の試験を重視するが、数回のアンケート＋小テストの結果も考慮する。
暗記物ではない。自分なりに事実について検討・評価し、それを表現する力を見る。

教科書・参考書等

参考書
中村裕『ロシアの議会と政治』、塩原俊彦『ロシアの「新興財閥」』、永綱憲悟『大統領プーチンとロシア政治』（いずれも東洋書店発行のユーラシア・ブックレット）、竹中治堅『首相支配―日本政治の変貌』中公新書

科目コード	和文：	社会と家族A（1期）／B（2期）ー家族社会学の基礎ー	1期	水	3-4
501－0190（A） 501－0191（B）	英文：	Society and Family A / B : the Basis of Family Sociology	2期	水	3-4
			2単位	30時間	選択

受講対象学生	全学部1～3年	授業の形式	講義
履修前提授業科目名		密接な関係授業科目名	
備考			

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
石沢真貴	政策科学	教文3-331・2616			

オフィスアワー　曜日及び時間：火，水，木　　場所：教文3-331

授業の目的及び到達目標

1．目的
家族に関する諸問題を、家族とは何かを問いつつ考察することで、現代社会への関心を高める。
2．到達目標
家族に関する基礎知識を身につける。
社会集団としての家族の構造や機能を理解する。
家族をとりまく社会変化を理解する。
家族に関する社会制度を理解する。

カリキュラム上の位置付け

社会科学的な視角、考察力を養うための基礎的な科目
社会学、特に家族社会学的内容

授業の概要と進行予定及び進め方

授業の概要
家族に関わる現代的諸問題について、家族とは何かを問いつつ考察する。
進行予定及び進め方
1　ガイダンス
2　家族の定義
3　家族に関する基礎的概念
4　家族と法
5　法に関する近年の動向
6　近代社会と近代家族
7　世帯構造の変化でみる現代家族
8　世帯構造変化の要因
9　家族機能の変化と家族問題
10　社会制度としての結婚
11　結婚に関する近年の動向
12　離婚・再婚に関する近年の動向
13　夫婦関係と性別役割分業
14　ライフステージからみた家族関係
15　現代家族のゆくえ

授業に関連するキーワード

家族	近代	社会学

成績評価の方法及び合否判定基準

・授業の最後にレポートもしくは記述試験により成績を評価し、原則として再試験や追試験は行わない。
・授業内のレポート等提出物を評価の際に考慮する場合もある。
・総合的な評価の結果が60点未満の場合は不合格Dとする。

教科書・参考書等

・教科書は使用しない。
・必要に応じて参考文献を紹介したり、プリント資料を配布したりする。

科目コード	和文：	大学生活と学習Ⅰ A(1期)／B(2期) ーキャリア形成入門ー	1期	月	9-10
501－0313（A） 501－0314（B）	英文：	Campus Life and Learning I A / B : an introduction to career formation	2期	月	9-10
			2単位	時間	選択

受講対象学生	全学部1～3年次	授業の形式	講義
履修前提授業科目名		密接な関係授業科目名	
備考			

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
中村 裕	教育文化学部	教文3-332,2604			

オフィスアワー　曜日及び時間：火16：00-17：00　場所：教文3-332

授業の目的及び到達目標

1．目　的
明確な目的意識をもって主体的に自らのキャリアについて考える姿勢を確立する。就職活動を有利に進めるためのhow toものと考えて受講すると失望する。
2．到達目標
1.仕事をするといういうことの意味を考える態度を身につける。
2.将来自分が仕事をする世界を取り巻く環境について正確に理解する。
3.自分の希望を達成するために何をしなくてはならないのか等に関して自己分析を行う力　をつける。

カリキュラム上の位置付け

文字通りキャリア形成入門

授業の概要と進行予定及び進め方

1．ガイダンス―大学での経験がキャリア形成にとって持つ意味
2．今年度の就職をめぐる状況―『労働経済白書』を読む
3．労働の意味を考える―ロナルド・ドーア『働くということ　グローバル化と労働の新しい意味』（中公新書）を手がかりに
4．講演「秋田大学の学生に求められるもの」
5．日本の労使関係（1）―高度経済成長と「会社人間」
6．日本の労使関係（2）―新自由主義のなかでの変容
7．講演「企業のなかでの能力の生かし方」
8．講演「新聞はこう読もう」
9．公務員の世界（1）―公共サービスとは何か
10．公務員の世界（2）―地域社会を創るという発想
11．講演「山王―公務員の世界から見えてくるもの」
12．講演「勤労者にとっての法律学」
13．講演「職業選択の方法」
14．まとめと意見発表―職業観の再構築
15．レポート―卒業後の進路について

授業に関連するキーワード

キャリア	職業観	日本的労使関係
雇用形態の多様化	会社人間	公共サービス
主体的選択		

成績評価の方法及び合否判定基準

授業参加の積極度＋レポート

教科書・参考書等

ロナルド・ドーア『働くということ　グローバル化と労働の新しい意味』（中公新書）

科目コード	和文：	教養ゼミナールⅠ ー東南アジアの言語と社会ー	2期前半	金	5-6
502－0520	英文：	Seminar for Culture I : Languages and societies in Southeast Asia	1単位	時間	選択

受講対象学生	一年、しかし、基本的に制限はない。	授業の形式	講義・学生参加型
履修前提授業科目名	なし	密接な関係授業科目名	
備考	20名以内		

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
三宅良美	教育文化・国際コミュニケーション	018-889-2633			

オフィスアワー　曜日及び時間：月曜　5－6　　場　所：教育3号館246号室

授業の目的及び到達目標

1．目　的
秋田大学ではややなじみの薄い東南アジアの社会、文化、言語に触れ、その他のアジアの諸地域とどのように異なるのかを理解した上で、さらに東南アジアの世界観に共通するもの、すなわち、さまざまな宗教と世界観、慣習の多様性をしる。とりわけ、東南アジア最大の国インドネシアを中心にレクチャー、ワークショップを行う。もうひとつの軸は言語。東南アジア最大国であるインドネシアの公用語、インドネシア語をまなび、オーストロネシア系言語の特徴を知る。
2．到達目標
学生自身が自分の関心をみつけ、東南アジアの定義、および文化、さらにはサブカルチャーをも理解、プレゼンテーションができるようになる。

カリキュラム上の位置付け

授業の概要と進行予定及び進め方

1．東南アジアとは何か。インドネシア語ことはじめ。
2．東南アジアの文化とは何か。そして、言語とはどんなもの？
3．宗教と世界観
　　アニミズム
4．慣習と文化
5．歴史：コロニアリズムとの関係。
6．東南アジアの現代
7．演劇、舞踊、そしてポップカルチャー
8．プレゼンテーション

授業に関連するキーワード

post-colonialism	アニミズム	イスラム
ヒンドゥー教	orientalism	culturalism
王権論		

成績評価の方法及び合否判定基準

出席

グループ・プレゼンテーション　ダイアローグ実践。
そして、そのドラフト

教科書・参考書等

弘文堂「講座東南アジア学シリーズ：東南アジアの思想、東南アジアの社会、東南アジアの文化、東南アジアの自然、東南アジアと日本, etc.」
NHK旅するインドネシア

科目コード	和文：	日本論A（1期）／B（2期）ー「ニホン」か「ニッポン」かー	1期	集中	
502－0011（A） 502－0012（B）	英文：	Lecture on Japan A / B : Nihon or Nippon ?	2期	集中	
			1単位	15時間	選択

受講対象学生	全学部1～3年	授業の形式	講義
履修前提授業科目名		密接な関係授業科目名	
備考	別途掲示により通知		

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
熊田亮介	文化環境	教文3-337・2668			

オフィスアワー　曜日及び時間：木　14：30～17：30　　場　所：教文3－337（電話：889-2668）

授業の目的及び到達目標

1．目　的
日本の近現代史を中心として，ともすれば固定的にとらえがちな「日本」をめぐる諸問題について再検討を加え，従来の日本史像を見直す視点を提供する。
2．到達目標
講義で取り上げる問題について，関係文献を読み，多様な視点から検討を加えて，自分の意見を取りまとめる。

カリキュラム上の位置付け

授業の概要と進行予定及び進め方

1．国号「日本」の成立はいつか
2～3．「にほん」か「にっぽん」か
国号の読み方の歴史をたどり，その歴史的課題について考える。
4～5．祝日の歴史
国定教科書に登場する祝祭日と現在の祝日の歴史をたどり，その歴史的課題について考える。
6～7．「日本人」とは
日本人の定義について検討し，家族国家論・国民国家論・単一民族国家論について考える。
8．改めて「日本」を問う

授業に関連するキーワード

日本		

成績評価の方法及び合否判定基準

各授業時間に行う小レポートと複数回のレポートをもとに評価する。

教科書・参考書等

教科書は使用せず，授業用資料をその都度配布する。参考書は随時紹介する。

科目コード	和文：	日本事情Ⅱ ー異文化コミュニケーション入門ー	2期	月	3-4
502－0040	英文：	Studies on Japan II : Understanding Japanese Culture Through Communication	2単位	30時間	選択

受講対象学生	全学部の学生・留学生	授業の形式	演習・学生参加型
履修前提授業科目名	特になし	密接な関係授業科目名	異文化コミュニケーション関連科目
備考	この授業は「行動型」授業である。特にグループ活動が多いので、無断欠席、締切を守らないなどの態度は、グループによる成績評価に影響する。作品作りなどの時間的負担は大きいかもしれないが、それだけの達成感を得られることは保障する。他学部の学生（留学生も含む）と友達になれること請け合います。		

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
宮本律子	教育文化学部	教3－229・2688			

オフィスアワー　曜日及び時間：水曜日14：30-17：00　場　所：宮本研究室（教3－229）

授業の目的及び到達目標

1．目　的
体験を通して異文化コミュニケーションの方法を身につける
2．到達目標
（1）色々な文化的背景を持つ者（異なる出身地、異なる学部、異性など）が真に深い交流を行う
（2）共同で作品を作り上げるということを通して、異なる文化背景を持つ相手とのコミュニケーションの仕方を模索する
（3）自分の思考・行動様式を客体化出来るようになる
（4）日本と秋田をより深く知る

カリキュラム上の位置付け

目的・主題別科目の一つである。
1年次の学生や新しい留学生にとっては、大学生活のオリエンテーション教育となる。2年次以上の学生にとっては、新しい人間関係を作る場となる。
この授業で得たものは、大学での学び（学問の進展と方法論の獲得）の基礎のとなるはずである。

授業の概要と進行予定及び進め方

コミュニケーションゲームや討論などを通して、交流を深めつつ、グループに分かれて、興味のあるテーマについて共同で作品を完成させる。留学生1名以上が入った4～5名のグループ活動が中心。
授業の流れは次の通り：
（1）自己紹介ゲーム、なべっこ遠足などを通して交流を深める。
（2）前年の授業で実施されたプロジェクトの作品を鑑賞し、作品作りのイメージをもつ。
（3）グループに分かれて、様々なテーマについて討論をする（3～4回グループを変える。
（4）グループで中間発表のテーマを決定→この後はグループ別作業。
（5）中間発表（Power Point使用、グループ単位）
（6）期末発表（Power Point使用、中間とは別のグループ）
（7）個人レポート提出

★第1回目の授業（10月6日）に参加する学生は、自己紹介のための名刺（名前、学部、出身地など簡単に自分を紹介する事柄を書いた名刺大のカード、あまり詳しい個人情報は書かないこと）を一人20枚ずつ用意してきてください。

授業に関連するキーワード

異文化コミュニケーション	文化の相対性	多文化共生
自己の開示	共同作業	

成績評価の方法及び合否判定基準

この授業は参加することに大きな意味がある。従って参加度を重視する。参加度とは、単に出席することだけではなく、毎回の授業のグループ活動にどれだけ積極的に貢献したかをみるものである。
中間発表20%、期末発表20%、個人レポート35%、参加度25%

教科書・参考書等

特に指定しない。
授業中、参考資料をプリントして配布する。

科目コード	和文：	日本事情Ⅳ ー日本の文化と社会を理解するー	2期	金	5-6
502－0060	英文：	Studies on Japan IV : Japanese Cultural Background	2単位	30時間	選択

受講対象学生	全学の学生（主として留学生）	授業の形式	講義・演習・学生参加型
履修前提授業科目名		密接な関係授業科目名	日本事情III
備考			

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
伊藤 美樹子	非常勤講師	宮本研究室（教文3-229・2688）			

オフィスアワー　曜日及び時間：金曜日14：30－15：30　場所：宮本研究室（教文3－229）

授業の目的及び到達目標

1．目　的
1．大学生活に必要な日本および日本人の生活・文化についての基礎的な知識を得る。
2．日本文化と自分の所属文化を比較することで日本文化への理解を深めると同時に、自国の文化について捉えなおす。
3．文化の可変性や流動性について考えながら、自分の考え方を客観的にとらえる。
4．他文化に所属する他の受講者に対し、積極的に交流を図る。
2．到達目標
1．映像の中に描かれる事柄を元に日本文化に対して、その他の動作や周囲の状況とともに認識を深める。
2．日本について客観的、かつ主体的に捉えることができる
3．自分の文化や思考方法について客観的に認識できる。
4．他の受講者と積極的に意見交換を行うことで、自らの考えを深めることができる。
5．自分の考えをまとめ、他の受講者にわかりやすく説明するための工夫ができる。

カリキュラム上の位置付け

留学生のオリエンテーション教育の一環

授業の概要と進行予定及び進め方

【概要】
1980年代以降の、主に日常的な文化を背景とした日本映画を鑑賞し、それに基づく文化項目の確認、他文化との異同、問題点などについてグループごとに討論を行う。その際、わからなかったことや、詳しく知りたいと思うことについて各自で調べる。討論の中で特にとりあげたいことがらについては、各自リポートにまとめ、発表する。
【進行予定】
第１回　オリエンテーション
第２回　10月～３月の行事について
第３回　10月～３月の行事について
第４回　映画１の説明、鑑賞、分析、討論
第５回　映画１の鑑賞、分析、討論
第６回　映画１の鑑賞、分析、討論
第７回　発表
第８回　映画２の説明、鑑賞、分析、討論
第９回　映画２の鑑賞、分析、討論
第10回　映画２の鑑賞、分析、討論
第11回　発表
第12回　映画３の説明、鑑賞、分析、討論
第13回　映画３の鑑賞、分析、討論
第14回　映画３の鑑賞、分析、討論
第15回　発表

授業に関連するキーワード

留学生	文化	日本社会
客観的視点	主体性	生活

成績評価の方法及び合否判定基準

成績評価は100点を満点とし、以下のように評価する。
・発表　３回　各20点
・班活動態度・活動に用いた資料・リフレクションノート　40点

教科書・参考書等

参考書
『映画で日本文化を学ぶ人のために』窪田守弘（編）　世界思想社

科目コード	和文：	社会と地域A（1期）／B（2期）ー都市社会学の基礎ー	1期	火	3-4
502－0120（A） 502－0121（B）	英文：	Society and Community A / B : Introduction to the Urban Sociology	2期	火	3-4
			2単位	30時間	選択

受講対象学生	全学部	授業の形式	講義
履修前提授業科目名	（特になし）	密接な関係授業科目名	（「教養基礎教育」では特になし）
備考			

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
和泉　浩	教育文化学部	018-889-2649			e-mail: izumi@ed.akita-u.ac.jp

オフィスアワー　曜日及び時間：火曜昼休みほか研究室在室時　場　所：教育文化学部3号館322

授業の目的及び到達目標

1．目　的
現代における地域と社会の諸問題・諸事象を社会学的視点からとらるために、社会学の考え方、特に都市社会学の基本的な理論と今日の理論展開について学ぶ。

2．到達目標
1. 社会学とは、どのような学問なのか理解する。
2. 都市社会学のこれまでの基礎的な理論と理論潮流および「空間論的転回」以降の社会学と地理学の理論状況等を理解する。

カリキュラム上の位置付け

都市社会学、社会学一般の基礎となる授業で、特に他の授業の履修を前提にするものではありません。ただし、さまざまな理論を取りあげるので、抽象的で難しい内容も含みます。

授業の概要と進行予定及び進め方

＜1期＞
授業予定（以下の各講での内容は、授業の進み具合などにより変更します）。

第1講　授業についての説明
第2～3講　社会学とはどのような学問か
第4講　社会学における「社会」
第5講　「地域」とは
第5～6講　地域社会、地域コミュニティの現状と問題
第6～9講　都市社会学の基礎と都市研究の理論潮流
（ウェーバー、ジンメル、シカゴ学派からミシェル・フーコーの都市論まで）
第10～15講　「空間論的転回」以降の社会学と地理学

＜2期＞
授業予定（以下の各講での内容は、授業の進み具合などにより変更します）。

第1講　授業についての説明
第2～4講　社会学とはどのような学問か
第5講　社会学における「社会」
第6講　「地域」とは
第6～7講　地域社会、地域コミュニティの現状と問題
第8～10講　都市社会学の基礎と都市研究の理論潮流
（ジンメル、シカゴ学派からミシェル・フーコーの都市論まで）
第11～15講　「空間論的転回」以降の社会学と地理学

授業に関連するキーワード

社会学	地域	社会理論
都市	空間論的転回	

成績評価の方法及び合否判定基準

授業に関連する内容についての小テスト（複数回の場合あり）とレポートで成績を評価します。
・小テスト(40点)：授業内容について理解しているかの確認
・レポート(60点)：授業の内容をふまえ、社会学の視点を理解し、自分の議論を展開できるかをみる課題を出します。
小テストおよびレポートの課題については授業内でのみ説明を行い、それ以外、掲示や、欠席した場合の個人的な問い合わせに対する説明などは行いません。授業を欠席する場合は、欠席届けを提出してください。
レポートは締め切り厳守で、締め切り日「時」をすぎたレポートは評価の対象外にします。またほぼ同一内容のレポートがあった場合、またネットや本の内容をそのまま写したと判明したレポートは、そのすべてのものをDにします。きちんとした引用の書き方をせずに、部分的であっても無断で著作、ネットの内容を引用したことがわかった場合もDにしますので注意してください。手書きのレポートは基本的に不可とします。レポートは英語でも可です。追試験・再試験は行いません。

教科書・参考書等

教科書と参考文献（和書および英語の文献）は、授業の内容に関連するものを、そのつど各回の授業のなかで指示しますが、参考文献として、右記のようなものがあります。

加藤政洋・大城直樹編著，2006，『都市空間の地理学』ミネルヴァ書房.
若林幹夫，1995，『地図の想像力』講談社選書メチエ.
シヴェルブシュ，1982，『鉄道旅行の歴史』法政大学出版局.
ジンメル，『ジンメル・エッセー集』平凡社ライブラリー.
ウェーバー，『都市の類型学』創文社.
Giddens, Anthony, 2006, Sociology, 5th edition, Polity Press.　ほか

科目コード	和文：	秋田の自然と文化Ⅰ A（1期）／B（2期） ―秋田の食―	1期	金	7-8
502－0153（A） 502－0154（B）	英文：	Nature and Culture in Akita I A / B : Dietary Habits in Akita	2期	金	7-8
			2単位	30時間	選択

受講対象学生	全学1～3年	授業の形式	講義・演習・学生参加型
履修前提授業科目名		密接な関係授業科目名	
備考			

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
長沼誠子	教育文化学部	教育文化学部1－203・2530			

オフィスアワー　曜日及び時間：月曜日9：00～12：00　場　所：教育文化学部1号館203室

授業の目的及び到達目標

1．目　的
秋田大学に学ぶ学生として、秋田の食の特徴を知るとともに、地域における食嗜好・食文化の相違性とその要因について考える。
2．到達目標
1）食生活の構造、おいしさ評価と食嗜好形成のメカニズムを説明できる。
2）食の地域性とその要因について、事例（秋田の食、出身地の食）をあげて説明できる。
3）食に関する統計資料を分析し、その結果を発表できる。
4）官能評価法の目的・方法を理解し、評価の実施・集計・解析を行い、その結果を発表できる。
5）各地域の食文化に関する情報を収集してグループ討論を行い、その結果を発表し、クラス内で意見交換ができる。

カリキュラム上の位置付け

目的主題別科目【地域社会論】の授業科目として、私たちの身近な食生活について「地域と食文化」の視点から考える。主に「学問の進展」を目的としており、学生の発表・討論を通して、「地域と食文化」研究の萌芽を探ることをねらいとする。

授業の概要と進行予定及び進め方

1．ガイダンス：地域とは？　食文化とは？
2．食生活の構造（食行動分析）何のために食べるのか？
3．おいしさのメカニズム（官能評価・嗜好調査）おいしいと思う理由は？
4．食嗜好の形成要因（食歴調査）食べ物が嫌いになる理由・好きになる理由は？
5．米食の文化（官能評価）ご飯の好みに個人差や地域差はあるか？
6．米食の文化（資料分析）米食の国内比較・国際比較
7．米食の文化（グループ討論）秋田の米食は？　○○地域の米食は？
8．報告会：「地域と食文化を考える－米食文化を中心として」
9．秋田の食文化（資料分析）食材・調理加工法に地域差はあるか？
10．秋田の食文化（資料分析）塩味・甘味の好みに地域差はあるか？
11．秋田の食文化（官能評価）秋田の食の特徴は？
12．行事と食（資料分析）行事食が継承される理由・継承されない理由は？
13．地域と食文化（グループ討論）
14．報告会：「地域と食文化を考える」
15．期末試験

＊授業の内容に応じて評価・調査・集計・解析などを個別あるいはグループ別に実施し、毎時、評価用紙・課題用紙などを提出する。
＊集計作業・結果の解析、情報の収集などを授業時間外の課題にする場合がある。
＊学生への質問、討論は随時行う。
＊PCプロジェクターは随時活用する。

授業に関連するキーワード

食生活	食文化	食嗜好
地域	秋田	米食
行事食		

成績評価の方法及び合否判定基準

評価・課題用紙の内容および発表・討論参加状況 70％
期末試験（資料等の持込有）30％

教科書・参考書等

資料を配布する。
参考書：石川寛子『地域と食文化』放送大学教育振興会
近藤弘『日本人の味覚』中公新書
その他、授業時に紹介する。

科目コード	和文：	秋田の自然と文化Ⅱ B ―秋田の農―	2期	火	5-6
502－0174	英文：	Nature and Culture in Akita II B : Agriculture in Akita	2単位	30時間	選択

受講対象学生	全学部	授業の形式	講義
履修前提授業科目名		密接な関係授業科目名	
備考			

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
寺井謙次	教育文化学部	教文1-212・2690			

オフィスアワー　曜日及び時間：随時　　場　所：教文1-212

授業の目的及び到達目標

1．目　的
秋田の風土的認識を土台にしながら秋田の農業の姿や歴史を概観し，「農とは何か」を考えてもらう一つの契機としたい。

2．到達目標
単に「農」にかかわる断片的な知識を得るということではなく，地域性や社会環境，さらには食糧生産や環境保全との関係性のなかで，「農の営み」について自分なりの考え方をもつことを期待している。

カリキュラム上の位置付け

「地域社会論」を構成する１科目として，内容が科目間相互に関連するものである。

授業の概要と進行予定及び進め方

1．はじめに
2．秋田の自然　(1) 自然環境
3．秋田の自然　(2) 農業的自然
4．秋田の稲作　(1) イネと人間とのかかわり
5．秋田の稲作　(2) 生き物としてのイネの一生
6．秋田の稲作　(3) 昔の品種と栽培の技術
7．秋田の稲作　(4) 今の品種と栽培の技術
8．稲作の北進と冷害の歴史
9．秋田の農業　(1) 風土性の違いと農作物
10．秋田の農業　(2) 豆の話
11．秋田の農業　(3) その他の農作物
12．秋田の野菜
13．農業について秋田の子どもたちはどう考えているのだろうか
14．そして親たちや行政は
15．まとめ

授業に関連するキーワード

成績評価の方法及び合否判定基準

出席状況（40%）　レポート（複数回）（60%）

教科書・参考書等

随時紹介

科目コード	和文：	秋田の自然と文化Ⅳ B－秋田の自然・資源・社会・文化－	2期後半	木	7-8
502－0234	英文：	Nature and Culture in Akita IV B : Nature, Mineral Resources, Society and Culture in Akita	1単位	15時間	選択

受講対象学生	全学年	授業の形式	講義
履修前提授業科目名		密接な関係授業科目名	
備考			

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
水田敏夫	地球資源	工資G310・889-2380	石山大三	環境資源センター	工資セ218・889-2447
井上正鉄	人間環境	教文4-412・889-2588	石沢真貴	政策科学	教文3-322・889-261教文
天野憲一	医学部附属実験実習機器センター	医・884-6190	神 万里夫	医学部内科学第1講座	医・884-6104

オフィスアワー　曜日及び時間：木曜，16：10-17：00　　場　所：工資G310・889-2380

授業の目的及び到達目標

1．目　的

秋田大学で学ぶ大学生として，秋田の自然社会，文化等の背景と環境を知り，秋田の特色を学び，爾後の専門教育との位置づけと係わり，地域と連携について考えることを目的とする．

2．到達目標

1）限りある地下資源の基礎的知識を学習し，世界有数の秋田県の黒鉱鉱床資源を認識し，資源の生成機構を理解できる．
2）世界自然遺産地域に指定された白神山地の生態系を理解し，人間との共存の道を探ることができる．
3）秋田県民の生活の特徴を種々の統計資料から読み取ることができる．
4）秋田県のツツガ虫病の実態を把握し，この症病の疫学，病態学，免疫学的な面を考えることができる．
5）胃癌について正しい知識を持ち、その予防、早期発見早期治療の必要性を理解することができる．

カリキュラム上の位置付け

人間生活に深く関連する事柄に中で，秋田の資源や文化に密接に係わる問題を取り上げ，3学部の教官がそれぞれの専門分野を生かした講義を行う（本年度の担当責任者は水田 敏夫）．

授業の概要と進行予定及び進め方

第1回（水田）：限りある地下資源について，地殻での資源鉱物の賦存状況そして金属の濃集による鉱床の生成を概説し，エネルギー資源賦存の基礎的知識を学習する．

第2回（水田）：秋田県は日本有数の地下資源の宝庫として知られている．県周辺の地下資源の賦存状況を概説し，秋田県北東部の北麓地域に分布する世界有数の黒鉱鉱床の地質と火山活動，鉱床探査技術，そして世界への貢献について紹介，資源問題を考える．

第3回（石山）：地学や地質の自然物を対象とする学習は，実際に野外における観察や実物に触れることが大切である．資源に関する講義の理解度をより高めるために，本学が世界に誇る鉱業博物館の展示物（鉱物，鉱石等）を見学・観察する（学生ボランティアも参加）．＜鉱業博物館玄関に集合＞

第4回（井上）：秋田県内には十和田湖・八幡平国立公国及び世界自然遺産地域に指定された白神山地があり，両地共にブナ林に覆われ，そこには国指定天然記念物であるイヌワシ，クマゲラを始め貴重な鳥獣が生息している．秋田が誇る生態系の構成員である貴重な鳥獣の生態を紹介，人間との共存の道を探る．

第5回（井上）：世界遺産地代白神山地を紹介し，白神山地の保護・管理の在り方を探る．

第6回（石沢）：秋田の生活，秋田県民の生活の特徴を種々の統計資料から明らかにする．

第7回（天野）：秋田県を含む裏日本には昔からツツガ虫病というダニに刺されることによるリケッチア症が存在している．現代でも秋田県では年間数十人・全国では数百人の規模で発症している．この症病の疫学，病態学，免疫学的な面を紹介し，その存在を知ってもらう．

第8回（ 神 ）：「胃癌について」日本は欧米に比し胃癌の発生が多いことが知られている。その日本の中でも秋田県の胃癌発生率は高く、胃癌について正しい知識を持ち、その予防、早期発見早期治療の必要性を理解する。

メッセージ：プリント，OHP, PCプロジェクターを用いながら講義を進める．
自然物を対象とする地学や生物学は，講義に加え，野外や本学の鉱業博物館等で観察することが望ましい．

授業に関連するキーワード

秋田の地質とエネルギー資源	黒鉱鉱床と鉱業博物館	世界遺産と白神山地
秋田の自然	秋田の生活	ツツガ虫
癌		

成績評価の方法及び合否判定基準

出席点及び授業内容に関するレポート（50%），簡単な小テスト（50%）で評価する．
80点以上をA, 79～70点をB, 69～60点をCとし，それ以下を不合格とする．

教科書・参考書等

特に使用しない．

科目コード	和文：	秋田大学論Ⅱ ―がんばれ！秋大生―	2期前半	水	1-2
502－0223	英文：	Lecture on Akita University II : Encouraging Messages from Guest Teachers	1単位	15時間	選択

受講対象学生	全学部1～4年	授業の形式	講義
履修前提授業科目名	特になし	密接な関係授業科目名	秋田大学論Ⅰ―秋田大学の歴史とこれから― (502-0212)
備考			

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
教育推進主管（責）		一般教育1号館2階主管室			

オフィスアワー　曜日及び時間：　　場所：

授業の目的及び到達目標

1．目　的
社会から秋田大学・秋田大学生に対する評価・期待について学ぶ。
2．到達目標
・大学生活を通じて身につけるべき能力について説明できる。
・秋田大学で学ぶことに対しての意欲を高める。

カリキュラム上の位置付け

教養基礎教育の目標1．「高校教育から大学教育への円滑な導入・転換を図り、大学生としての学習方法の基本に習熟させる」及び，
目標5．「知性・情操・身体の各面における教育を通じて豊かな人間形成を目指す」に密接に関連する科目である。

授業の概要と進行予定及び進め方

「秋田大学論Ⅱ」では，秋田県内各界のゲストティーチャーが，社会から見た秋田大学，秋田大学の在学生及び卒業生への期待，将来展望等について講義します。講義を通じて秋田大学の現状について多面的に理解するとともに，秋田大学でどのような学生生活を過ごすか，何を学ぶか，どのような形で社会と関わっていくかについて，深く考察してほしいと思います。

各回の講義担当者は，決定次第，掲示によりお知らせします。
参考までに，平成19年度のゲストティーチャーを以下に示します（担当順，敬称略。カッコ内は当時の職名）。

・浜田　純　（秋田県教育庁参事（兼）生涯学習課長）
・柴田　義弘　（秋田県高等学校長協会長・秋田県立秋田高等学校長）
・松村　洋　（秋田県立図書館長）
・秋元　健一　（秋田県警）
・髙田　恭介　（日本銀行秋田支店長）
・浜田　純　（秋田県教育庁参事（兼）生涯学習課長）
・小笠原直樹　（株式会社秋田魁新報社取締役編集局長・論説委員長）
・石塚　真人　（秋田テレビ株式会社　報道制作局　常任局長）

授業に関連するキーワード

秋田大学	大学生	教養教育
ゲストティーチャー	外部評価	社会参加

成績評価の方法及び合否判定基準

毎回授業終了時に提出する小レポートによって評価します。各レポートに対して評価を行い，
全体の得点が80％以上：A，70％以上80％未満：B，60％以上70％未満：C，60％未満：Dとします。
ただし，小レポートの未提出が3回に達した時点で，履修放棄とみなします。

教科書・参考書等

教科書は特に使用しません。

科目コード	和文：	地球の環境と資源Ⅰ A(1期前半)／B(2期前半) ー地球環境と化学元素ー	1期前半	金	5-6
503－0018（A） 503－0019（B）	英文：	Global Environment and Resources I A / B: Chemical elements and global environment	2期前半	月	1-2
			1単位	15時間	選択必修

受講対象学生	全学部全学年	授業の形式	講義
履修前提授業科目名	特にありません。高校で理科総合Aを履修していれば、化学Ⅰ,Ⅱを履修していなくとも、学習によって理解できる内容です。	密接な関係授業科目名	「地球の環境と資源ⅡB-地球環境と放射線」「地球の環境と資源Ⅲ-環境モニタリングと大気環境」
備考			

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
岩田吉弘	教育文化学部自然環境講座	教文3-218・2622			

オフィスアワー　曜日及び時間：木曜日、13時から14時30分まで　場所：教文3-218

授業の目的及び到達目標

1．目　的
地球環境における化学元素の分布と生体内での機能についての理解
2．到達目標
1，元素の生成と地球環境での分布について理解し説明できる。
2，生体内での化学元素の存在量と機能について理解し説明できる。

カリキュラム上の位置付け

環境、化学、生命科学を専門とする学生には、地球化学、無機化学、生物無機化学の入門的な内容。それらを専門としない学生には、地球環境と化学の関わりについて教養を高める内容。

授業の概要と進行予定及び進め方

1，化学元素の定義と単位、記号
2，地球の構造
3，宇宙における元素の生成と存在量
4，地圏、大気圏での元素の存在量
5，水圏、特に海洋における元素の存在量と移動
6，生体における元素存在量
7，生体における化学元素の機能
8，まとめと最終の小試験

＊遅刻者は最前列への着席していただきます＊

授業に関連するキーワード

地球	大気	海洋
生体	化学元素	必須元素
有毒元素		

成績評価の方法及び合否判定基準

授業3回目以降、毎回10分程度の小試験を行います。
合否：小試験の成績が60%以上を合格とします。
評価：A　100－80%，B　79－70%，C　69－60%，D　59－0%，履修放棄：出席日数が2/3に満たない者
受講者が確定した段階でプリントとバーコード付き出席票をまとめて配布します。紛失しても原則として再配布しません。
成績不振者、無断欠席者に対するレポート提出や再試験等による救済措置は一切行いません。

教科書・参考書等

参考書・教科書は用いません。プリント、OHPを利用します。

科目コード	和文：	地球の環境と資源Ⅲ ー環境モニタリングと大気化学ー	2期後半	月	1-2
503－0022	英文：	Global Environment and Resources III : Environmental monitoring and atmospheric chemistry	1単位	15時間	選択必修

受講対象学生	全学部全学生	授業の形式	講義
履修前提授業科目名	特にありません。高校で理科総合Aを履修していれば、化学Ⅰ,Ⅱを履修していなくとも、学習によって理解できる内容です。	密接な関係授業科目名	「地球の環境と資源ⅠAB-地球環境と化学元素」「地球の環境と資源ⅡA-地球環境と放射線」
備考			

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
岩田吉弘	教育文化学部自然環境講座	教文3-218・2622			

オフィスアワー　曜日及び時間：木曜日、13時から14時30分まで　場所：教文3-218

授業の目的及び到達目標

1．目　的
化学の立場で地球の大気環境について理解する。
2．到達目標
地球環境と大気化学について以下の内容について理解し説明できること。
1，環境モニタリングと化学分析
2，大気環境問題に関わる化学反応
3，大気環境問題の現状と未来

カリキュラム上の位置付け

環境や化学を専門とする学生には、入門的な内容。それらを専門としない学生には、教養を高める内容。

授業の概要と進行予定及び進め方

1，微量化学成分の化学分析
2，水質および大気のモニタリング
3，難分解性化学物質による環境汚染
4，光と物質の相互作用
5，地球規模での大気環境問題，地球温暖化と二酸化炭素
6，同、酸性雨と硫黄化合物
7，同、オゾン層破壊とフロン
8，まとめと最終の小試験

＊遅刻者は最前列への着席していただきます＊

授業に関連するキーワード

モニタリング	地球環境	大気
化学分析	地球温暖化	酸性雨
オゾン層破壊		

成績評価の方法及び合否判定基準

授業２回目以降、毎回10分程度のマークシート方式の小試験を行います。
合否：小試験の成績が60％以上を合格とします。
評価：A　100－80％，B　79－70％，C　69－60％，D　59－0％，履修放棄：出席日数が2/3に満たない者
成績不振者、無断欠席者に対するレポート提出や再試験等による救済措置は一切行いません。

教科書・参考書等

参考書・教科書は用いません。プリント、OHPを利用します。

科目コード	和文：	地球の環境と資源Ⅳ A（1期）／B（2期） ―地層の話―	1期	水	9-10
503－0123（A） 503－0124（B）	英文：	Global Environment and Resources IV A / B: Introduction to Geological Sciences	2期	水	5-6
			2単位	30時間	選択

受講対象学生	全学部1～3年	授業の形式	講義
履修前提授業科目名		密接な関係授業科目名	
備考			

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
白石建雄	工学資源学部	工資2-B304・2652	佐藤時幸	工学資源学部	工資2-G212・2371
山元正継	工学資源学部	工資2-G306・2375			

オフィスアワー　曜日及び時間：木曜日，12：00～12：30　場　所：工資2-B304

授業の目的及び到達目標

1．目　的

地層記録を素材として，地球科学的自然認識方法，ならびに地球上で生起する諸現象とその自然史的展開を学び，歴史性を背負った存在としての地球に関する認識を深めることを目的とする。

2．到達目標

1）地層が地球史のデータバンクであることを具体例にもとづいて説明できる。
2）地質学的自然認識方法を解説できる。
3）地球史が単なる漸進的変化ではなく，さまざまな事件で構成されていることを理解できる。
4）地震や火山噴火などの地学的事象の発生を支配している統一的過程について説明できる。
5）日本列島に自然災害が多発する原因の理解にもとづき，日常生活のあり方について考察できる。

カリキュラム上の位置付け

本講義は目的・主題別科目のうち，「自然環境と地球」を構成する。受講するにあたり，高校までの平均的知識のほか，特別な予備知識は前提しない。

授業の概要と進行予定及び進め方

基礎編
1．ガイダンス
2．地層は時計である；地質学的認識の基礎
3．古生物の進化と地質時代区分；地質時代区分は何を根拠にして行われているか
4．年代を測る；地質時代の年数はどのようにして測定されているか

各論編
5．ワンダフルライフーカンブリア紀の爆発ー；高等動物大量出現の時，何が起こったか
6．大量絶滅の謎；恐竜やアンモナイトはなぜ一斉に地球上から姿を消したのか
7．マグマのはたらき；火山噴火を起こすものの正体
8．火山噴火のタイプ；火山噴火はどのように起こるのか
9．地層の形成；地層のできかた
10．気候は変動する；地層記録によれば，地球上の気候は驚くほど大規模に変化する
11．地磁気は逆転を繰り返した
12．地層の変形と地殻変動

総括編
13．海洋底は拡大している；海洋底は大洋中央海嶺で形成され，水平方向に移動する
14．プレートテクトニクス地球表層で進行している基本過程
15．日本列島はどういう所か；日本列島ではなぜ地震災害，火山災害が多いのか

授業に関連するキーワード

地質学	古生物（化石）	進化
マグマ	火山噴火	地球環境変遷
プレートテクトニクス		

成績評価の方法及び合否判定基準

期末の試験結果で判定する。60点以上を合格とする。

教科書・参考書等

教科書は使用しない。毎回の講義にプリントを配付するとともに参考書を紹介する。

科目コード	和文：	環境と社会Ｂ－地域環境とインフラストラクチャー－	2期前半	木	7-8
503－0184	英文：	Environment and Society B: Regional Environment and Infrastructure	1単位	15時間	選択

受講対象学生	全学部1～3年	授業の形式	講義
履修前提授業科目名		密接な関係授業科目名	
備考			

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
木村一裕	工学資源学部	総合研究棟7F教員室 2368	石井千万太郎	工学資源学部	総合研究棟5F教員ゼミ室 2361
浜岡秀勝	工学資源学部	総合研究棟7F教員室 2974	川上洵	工学資源学部	工資1-414 2366
長谷部薫	工学資源学部	工資1-409 2358	徳重英信	工学資源学部	工資1-412 2367
松冨英夫	工学資源学部	工資1-416 2363	荻野俊寛	工学資源学部	工資1-419 2364

オフィスアワー　曜日及び時間：講義終了時にアポイントを取って下さい。　場　所：各教員室

授業の目的及び到達目標

1．目　的
われわれが日常生活を営んでいる都市や地域社会では、誰もが安全、安心、快適に生活でき、そして美しい空間の創出が望まれる。そのために必要な諸施設を社会資本という。まず、はじめに社会資本について学び、ついでその整備理念と手法について学ぶ。その後に具体的な整備例について履修する。

2．到達目標
1．社会資本（インフラストラクチャー）とはどのように分類されるのか理解し、他に説明できるようにする。
2．地域環境に及ぼす社会資本整備について理解し、他に説明できるようにする。
3．社会資本整備理念を学び、ついで具体例として、鋼、コンクリート、木材による橋梁、地盤災害、水環境を取り上げ、理解できるようにし、他に説明できるようにする。

カリキュラム上の位置付け

日常生活に不可欠な社会資本整備について履修し、その整備手法について習得することを目的とする講義である。

授業の概要と進行予定及び進め方

第１回：社会基盤施設とは何か、その分類と整備理念について
第２回：持続可能な都市・地域について
第３回：環境に配慮した交通について
第４～６回：社会基盤整備の中での鋼・木・コンクリート材料について
第７～８回：地盤災害と水環境

授業に関連するキーワード

社会基盤	社会資本整備の理念	都市と交通
建設構造物	建設材料	地盤災害
水環境		

成績評価の方法及び合否判定基準

レポート（30%）、グループ学習の成果（60%）、その他出席状況等（10%）などを考慮して総合的に評価する。

教科書・参考書等

科目コード	和文：	教養ゼミナールⅡ ー「授業」を考えるー	2期	水	7-8
504－0550	英文：	Seminar for Culture II : Research on Teaching	2単位	30時間	選択

受講対象学生	全学部1・2年生	授業の形式	学生参加型
履修前提授業科目名	(特になし)	密接な関係授業科目名	
備考	20名以内		

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
細川和仁	教育推進総合センター	般1－204, TEL3188			

オフィスアワー　曜日及び時間：水曜日9・10限　　場所：教員室（般1－204）

授業の目的及び到達目標

1．目的
「授業」を題材に，指導と学習の関連性について理論的かつ実践的に研究する。
2．到達目標
1）授業の構成要素について説明できる。
2）自ら「問い」を設定し，研究に必要なデータや材料を収集・整理できる。
3）自分の考えをまとめ，他の受講者にわかりやすく説明するための工夫ができる。また，他の受講者の説明を聞くことができる。
4）他の受講者と意見交換を行い，意見を集約することができる。

カリキュラム上の位置付け

※2008年度は2期に開講する。「指導」や「学習」を客観的に捉えなおすという点では，教養基礎教育の目標(1)「高校教育から大学教育への円滑な導入・転換を図り……」と関連が深い。また，情報を他者に伝えるための工夫をするという点では，同目標(3)「情報処理技術（演習を含む）を習得する基礎教育に取り組む……」にも関連している。目的・主題別科目の目的のうち「学問の進展」に重きを置く。

授業の概要と進行予定及び進め方

この授業では，われわれが小・中・高と約1万時間も体験してきた「授業」について，少し距離を置いて考察していく。考察の中心は，「指導／teaching」と「学習／learning」である。「教える」「学ぶ」という営みは，学校教育に限られたものではない。社会の様々な場面で見られる。例えば，スポーツにおけるコーチングもその一つといえるだろう。サッカーの指導者として評価の高いイビツァ・オシム氏のこんな言葉，「試合の前とかにはほとんど戦術の話はしない。モチベーションを上げるのに大事だと思っているのは，〈選手が自分たちで物事を考えようとするのを助けてやる〉ことだ」（木村元彦著『オシムの言葉』集英社）。この言葉には，オシム氏の指導に対する考え方が表れており，このようなスタンスが「教える」ことと「学ぶ」ことをつなぐ重要な要素になっていると考えられる。「教える」と「学ぶ」の間に何があるのかについて，様々な角度から検討していきたい。
基本的には，指導や学習に関連する文献の講読，受講者間での議論，リポートの作成（図書館等でのリサーチを必要とする）の3つの活動を中心に進める。所属学部に関わらず，「教える」「学ぶ」という営みに関心を持っている学生の受講を期待する。実際，これまで2年間の受講者も，教育文化45%，工学資源55%であった。取り上げるテーマは次の通り。

○学校という装置……授業という営みが行われている学校教育のシステム自体を，江戸時代の手習塾などと対比しながら見直し，その特徴や課題について考える。
○他者に教えることの難しさ……人に何かを伝えるという行為をデザインし，実際にやってみることで，その難しさを体験的に学び，自分なりの工夫ができるようになることを目指す。
○学習観……指導について考えるため，学習に対する様々な考え方について考察する。
○教える人の知識・技術……教える内容をよく理解していれば，うまく教えることができるかどうかについて考える。
○口頭発表による研究成果報告

授業に関連するキーワード

指導／teaching	学習／learning	学校
ゼミナール	知識	技術
教師		

成績評価の方法及び合否判定基準

成績評価は100点を満点とし，次の4つの課題に配点する。
いずれの課題も，指定した様式に則って，不正なく真摯に取り組んでいれば，最低でも6割の得点を与えることにしている。
1）小リポート（20点）……文献を読んでレジメにまとめる。
2）口頭発表（35点）……授業内容に関連するテーマについて，研究した内容を報告する。
3）最終リポート（20点）……口頭発表の内容を文章にまとめる。
4）リフレクション・ノート（25点）……各回の授業終了時に記入し提出する。欠席が5回に達した時点で履修放棄とみなす。
参考までに，過去2年間の成績分布の平均は，A：27%，B：67%，C：0%，D：6%（ただし，履修放棄は除く）。

教科書・参考書等

教科書……指定しない。ただし『大学生のための学びのすゝめ―読む・書く・調べる・聞く・話す―』は頻繁に利用する。
参考書……関心のある人は読んでみてほしい。その他にも，授業中に紹介していく予定。

・佐藤　学『教師というアポリア：反省的実践へ』世織書房，1997年
・辻本雅史『「学び」の復権―模倣と習熟』角川書店，1999年
・浅田匡・生田孝至・藤岡完治編『成長する教師―教師学への誘い』金子書房，1998年
・稲垣忠彦・久富善之編『日本の教師文化』東京大学出版会，1994年
・永井聖二・古賀正義編『《教師》という仕事：ワーク』学文社，2000年
・東　洋『日本人のしつけと教育―発遠の日米比較にもとづいて―』東京大学出版会，1994年
・生田久美子『「わざ」から知る』東京大学出版会，1987年

科目コード	和文：	心理学Ⅱ A ー現代心理学の課題ー	2期	水木	5-6
504－0021	英文：	Psychology II A - Introduction to Psychology -	2単位	30時間	選択

受講対象学生	1～2年生(医学部以外)	授業の形式	講義
履修前提授業科目名		密接な関係授業科目名	心理学I
備考			

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
清水貫裕	教育心理学講座	教5-405, 2539			

オフィスアワー　曜日及び時間：月曜5，6時限　場所：研究室

授業の目的及び到達目標

1．目的
本講義では、「関係」をキーワードにして、主に社会心理学、発達心理学、臨床心理学の領域における基礎的な理論や研究知見について学んでいきます。
2．到達目標
人間関係や人間関係が個人に及ぼす影響に関する知見や理論を理解し、説明できるようになること。

カリキュラム上の位置付け

認定心理士資格取得のための必修科目。

授業の概要と進行予定及び進め方

1．オリエンテーション

「関係」を深める・知る
2．印象形成
3．対人魅力
4．自己開示・自己呈示
5．パーソナリティの理解と自己認知（1）
6．パーソナリティの理解と自己認知（2）

「関係」を育てる
7．社会性の発達（1）
8．社会性の発達（2）ソーシャルスキル

「関係」を変える
9．態度と態度変容
10．説得コミュニケーション
11．ストレスとソーシャルサポート
12．心の問題への理解
13．心理療法の考え方（1）
14．心理療法の考え方（2）

15．試験

授業に関連するキーワード

人格心理学	社会心理学	発達心理学
臨床心理学		

成績評価の方法及び合否判定基準

試験と出席の総点で60点以上で合格とします。

教科書・参考書等

教科書は使用しません。参考書は授業で適宜紹介します。

科目コード	和文：	心理学Ⅱ B ―現代心理学の課題―	2期	水	5-6
504－0022	英文：	Psychology II B	2単位	30時間	必修

受講対象学生	全学部1～4年次生	授業の形式	講義・実習・学生参加型
履修前提授業科目名	特になし	密接な関係授業科目名	心理学Ⅰ
備考	医学部医学科必修		

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
北島正人	教育文化学部	4316・889-2693	柴田健	教育文化学部	

オフィスアワー　曜日及び時間：要　事前予約　　場所：

授業の目的及び到達目標

1．目　的
日常生活や職業に生かせる心理学の基礎的理論と方法を学習する。
2．到達目標
（1）日常生活で起こっていることを、授業でとりあげたトピックの範囲で心理学的に理解することができること。
（2）心理学をより専門的に学習するための基礎を習得すること。
（3）心理学研究の基礎的方法を習得すること。

カリキュラム上の位置付け

あらゆる人間活動と関係する「心理学」の基礎を習得させることは、優れた人材育成のための基礎教育となる。

授業の概要と進行予定及び進め方

1.　オリエンテーション
2.　心理カウンセリング1
3.　カウンセリングマインド2
4.　心理的ストレス1
5.　心理的ストレス2
6.　ノンバーバルコミュニケーション
7.　説得・流言
8.　1～7のまとめ
9.　精神分析の基礎
10. フラストレーション
11. コンフリクト
12. 防衛機制1
13. 防衛機制2
14. 自殺とその予防
15. 9～14のまとめ

授業に関連するキーワード

カウセリング	ストレス	防衛機制

成績評価の方法及び合否判定基準

講義・討論への積極的参加、出席状況を合わせて総合的に評価する。

教科書・参考書等

1～8については、配付資料をテキストとして用いる
9～15については「図説 臨床精神分析学」　前田重治 著　誠信書房

科目コード	和文：	教育学Ⅰ A(1期)／B(2期) ―現代社会と教育―	1期前半	火	7-8
504－0151（A） 504－0152（B）	英文：	Pedagogy I A / B: Modern Society and Education	2期前半	火	7-8
			1単位	15時間	選択

受講対象学生	全学部1～3年生	授業の形式	講義
履修前提授業科目名		密接な関係授業科目名	
備考			

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
細川和仁	教育実践総合センター		新井眞人	学校教育課程	教文5－505, 2542
浦野弘	教育実践総合センター	教育実践総合センター, 2698	佐藤修司	学校教育課程	教文5－509, 2541
池田全之（實）	学校教育課程	教文5－506, 2544	原義彦	学校教育課程	教文5－507, 2545

オフィスアワー　曜日及び時間：　　場所：

授業の目的及び到達目標

1．目　的
学校教育にとどまることなく、生涯にわたる人間の発達をトータルに捉え、現代社会における教育のありようを、教育哲学、教育史学、教育社会学、教育法学、社会教育学、教育工学等のさまざまな分野から分析を加える。

2．到達目標
教育の側面から人間存在の現代社会における位置と課題・展望についての認識を獲得し、それを通して自らの成長過程・学校体験を相対化し、自己の存在を未来に向けて開いていく契機とする。

カリキュラム上の位置付け

教育学関連科目の導入的位置にある。

授業の概要と進行予定及び進め方

1．教師学・教育技術学：（細川和仁）
2．教育と社会：教育は人間が社会で生きていくためには不可欠である。人間は教育により文化を習得し多様な社会的存在へと形成されていく。人間は教育により社会化されていくといってよい。ここでは教育社会学の立場から社会化のメカニズムに関する理解を深める。（新井眞人）
3．情報化社会におけるリテラシー：国は、2010年に「ユビキタスネットワーク社会」の実現を目指し「u-Japan政策」を展開しようとしています。このように社会の情報化が進展する中、ヒトの情報処理過程を手がかりにして、「学ぶ」ということの意味と、メディア・リテラシーについて考える。（浦野　弘）
4．教科書問題などを通じて国家と教育の関わりについて考察すると同時に、校則や体罰などの問題から学校と子供・親との関わりを学ぶ。（佐藤修司）
5．ヨーロッパ近代と理性の関係を、理性主義の限界と感性の復権の立場から論じ、現代人の故郷喪失、疎外状況を考察する。そして、同時に新しい人間理解のあり方を学ぶ。（池田全之）
6．わが国の社会情勢と生涯学習：構造改革が進展する中での生涯学習推進の現状と課題、および私たち一人ひとりの生涯学習のあり方について考える。（原義彦）

授業に関連するキーワード

教師と教育技術	教育的抵抗	社会化と逸脱行為
コンピュータ・リテラシー	情報処理	近代的理性
生涯学習		

成績評価の方法及び合否判定基準

レポート、試験、出席等を総合して評価する。

教科書・参考書等

科目コード	和文：	表現と人間Ⅰ A（1期）／B（2期） ―対人・対話・対応―	1期	木	5-6
504－0041（A） 504－0042（B）	英文：	Human Expressions I A / B: Human Relations	2期	木	5-6
			2単位	30時間	選択

受講対象学生	全学部1～2年	授業の形式	講義
履修前提授業科目名		密接な関係授業科目名	
備考			

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
佐々木 久長	医学部	884-6506			

オフィスアワー　曜日及び時間：　　場所：

授業の目的及び到達目標

1．目　的
人間関係に関する基礎的理論を学び、より良い人間関係が展開出来るようになる
人間関係がうまくいかない人に適切な支援ができるようになる
2．到達目標
1．人間関係の主体者としての自己理解を深める
2．対人コミュニケーションの構造を理解する
3．実際の対人関係の背景にある心理を理解する
4．傾聴について理解し実践を試みる

カリキュラム上の位置付け

授業の概要と進行予定及び進め方

1．人間関係の主体者としての自己
2．人間の存在性について
3．コミュニケーションについて
4．傾聴について（1）
5．傾聴について（2）
6．受容と拒否
7．援助と攻撃
8．依存と自立
9．家族という関係
10．友情について
12．個人と集団
13．対人関係の健康と病理
14．テスト
15．全体のまとめ

授業に関連するキーワード

自己理解	他者認知	コミュニケーション
傾聴		

成績評価の方法及び合否判定基準

定期試験（80%）＋出席（20%）

教科書・参考書等

参考書　1）吉森護編著　人間関係の心理学ハンディブック　北大路書房
2）対人行動学研究会編　対人行動学ガイド・マップ　ブレーン出版

科目コード	和文：	表現と人間Ⅱ B ー教育表現論ー	集中講義	集中	
504－0144	英文：	Human Expressions II B: Communication in Japanese	1単位	8時間	選択

受講対象学生	全学部1～4年	授業の形式	講義・演習・学生参加型
履修前提授業科目名		密接な関係授業科目名	
備考	2月19日(木)3／4限～7／8限、2月20日(金)3／4限～7／8限、2月23日(月)の3／4限～5／6限の8コマに集中講義を行う予定です。正式な日程は、掲示で08年10月頃発表します。		

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
阿部 昇	教科教育学	教文3-138／2618			

オフィスアワー　曜日及び時間：　　場所：

授業の目的及び到達目標

1．目　的
　ディベートの演習を通して、論理的思考力、批判的思考力、対話能力、説得力等を身につけていく。
2．到達目標
（1）質の高いディベートが展開できるようになる。
（2）論理的思考力を身につけ高めていく。
（3）批判的思考力を身につけ高めていく。
（4）対話能力、説得力等を身につけ高めていく。

カリキュラム上の位置付け

本授業は、論理的思考力、批判的思考力、対話能力、説得力等を身につけていくことを目指している。そのため、ここで身につけた力が多くの授業の基礎的な能力として生きていく。

授業の概要と進行予定及び進め方

ディベートの準備、実施、ジャッジ、記録、リフレクション等の実習を中心として授業を進めていく。

第1回　ディベートの紹介（ビデオ視聴を含む）
第2回　マイクロ・ディベート：その1
第3回　マイクロ・ディベート：その2
第4回　ディベートのスキル、ジャッジの方法、フローシートの書き方等の学習
第5回　本格ディベートの準備：その1（リサーチ・スキルの学習を含む）
第6回　本格ディベートの準備：その2（プランシートの書き方の学習を含む）
第7回　本格ディベート：本番
第8回　ディベートのリフレクション及び授業全体のまとめ

授業に関連するキーワード

論理的思考力	批判的思考力	対話能力
説得力	立論	反駁

成績評価の方法及び合否判定基準

成績評価は、次の二つによる。
（1）ディベート演習に積極的に参加すること（70%）……到達目標（1）～（4）
（2）指定されたレポートを提出すること（30%）……到達目標（2）～（3）

教科書・参考書等

授業の中で紹介する。

科目コード	和文：	文学論A（1期）／B（2期）―教養読書基礎講義―	1期	金	3-4
504－0061（A） 504－0062（B）	英文：	Lecture on Literature A / B: Lecture on liberal reading	2期	金	3-4
			2単位	30時間	選択

受講対象学生	全学部1～3年	授業の形式	講義
履修前提授業科目名	特になし	密接な関係授業科目名	特になし
備考			

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
成田雅樹	教育文化学部	教3－139・2531			

オフィスアワー　曜日及び時間：（1期）月火木金曜日　12：50～16：00
（2期）月曜日8：50～12：00　火水金曜日16：10～　場　所：教育文化学部　3－139（電話：889－2531）

授業の目的及び到達目標

1．目　的
（1）映像化された作品と原作の文章表現との比較によって，文学作品をストーリーやプロット、レトリックの面から分析する方法を学習し、文学の本質について考察する。
（2）文学作品を作者の生き方と比較して分析する方法を学習することを通して、文学の本質について考察する。
2．到達目標
（1）原作の文章表現及び映像化された作品の構造を分析し、文学作品の様々な「しかけ」を理解することができる。
（2）原作と映像化された作品との比較を通して、文学的表現の本質について論ずることができる。
（3）一般的な近代文学作品と児童文学作品の構造及び表現上の違いについて論ずることができる。

カリキュラム上の位置付け

目的主題別としては「学問の方法」を主とする科目。また、教養基礎教育の目標（1）と深く関わって、文学作品を様々な方法で分析することを通して、文学を通して人間や文化を考察していく契機とするものであり、発表、討論及び論文作成の基礎力を養おうとするものである。

授業の概要と進行予定及び進め方

1回（1期：4/11／2期：10/3）
　オリエンテーション（本授業の特色・進め方解説、批評理論の概説、ミニレポート「私にとっての文学」）
2～4回（1期・4/18～5/2／2期・10/10～10/24）
　明治期の文学として、夏目漱石の作品とその映像の比較検討、及び作者夏目漱石と作品の関わりについて考察する。「それから」を扱う。ミニレポート（映像と原作の比較・作家の人生と作品の比較）
5～6回（1期：5/9～5/16／2期：10/31～11/7）
　大正期の文学として、芥川龍之介の作品と作者芥川龍之介との関わりについて考察する。「トロッコ」「蜃気楼」を扱う。ミニレポート（作家の人生と作品との比較：長編と短編との比較：2作品の比較）
7～8回（1期：5/23～5/30／2期：11/14～11/21）
　大正から昭和期の児童文学として、宮沢賢治の作品とその映像の比較検討、及び作者宮沢賢治と作品の関わりについて考察する。「注文の多い料理店」「セロ弾きのゴーシュ」を扱う。ミニレポート（映像と原作との比較：作家の人生と作品との比較：児童文学と成人向け作品との比較：2作品の比較）
9回（1期：6/6／2期：11/28）
　昭和期の文学として、太宰治の作品と作者太宰治との関わりについて考察する。「人間失格」を扱う。ミニレポート（作家の人生と作品との比較：例えば「走れメロス」との比較）
10回（1期：6/13～6/20／2期：12/5～12/12）
　昭和期の児童文学として、新美南吉の作品と作者新美南吉との関わりについて考察する。「ごんぎつね」を扱う。ミニレポート（以前の読後感との通時的比較：作家の人生と作品との比較）
12～13回（1期6/27～7/4／2期：12/19～1/9）
　現代的な文学作品として、よしもとばなのの作品とその映像の比較検討、及び作者よしもとばなのと作品の関わりについて考察する。「つぐみ」を扱う。ミニレポート（映像と原作との比較）
14（7/11：1期／1/23：2期）回
　現代の児童文学作品として、立松和平のいわゆる命シリーズの比較検討，及び作者立松和平と作品の関わりについて考察する。「山のいのち」「海のいのち」「街のいのち」を扱う。ミニレポート（重ね読みによる「いのち」の意味の考察：絵本作品と文庫本作品との比較）
15回（1期：7/18／2期：1/30）
　試験（レポート）

※2～4回，7～8回，12～13回はビデオを使用する。授業で扱う原作の中で、短編は授業時間内に読むこともある。ただし，2回目までに「それから」を，9回目までに「人間失格」を，12回目までに「つぐみ」を読んでおくこと。また，各作家のその他の作品を随時読み，授業中の発表に備えることが望ましい。
※ミニレポートは、各回の授業をふまえて、各回のシラバスにあるテーマで家庭学習した結果をまとめて翌週に提出する。

授業に関連するキーワード

同化と異化及び通時的比較と共時的比較	観想的態度	ストーリーとプロット及びアイロニーとリアリティ
解釈と物語スキーマ	視点及びシーンとサマリー	芸術的価値と内容的価値及び気分情調とアレゴリー
表層と深層及びメタファーとテーマ		

成績評価の方法及び合否判定基準

出席率と発表や討論などの授業への参加状況と態度，及び授業中のノート・カード類とレポートの内容などを総合して評価する。出席と提出物の提出回数（作家ごとのミニレポート7枚等と試験レポート1枚）が2/3に満たない者は不可とする。この条件を満たしかつ授業中の取り組みに問題がない場合：C、出席及び提出物が数・内容ともほぼ完全な場合：B、Bの者で提出物の内容が優れ、授業の到達目標に十分達していると認められる場合：A。なお、C～Aは、到達目標の3観点について、授業中に解説した事柄を理解している場合：C、解説した事柄をふまえてそれ以外について考察している場合：B、Bの考察内容が優れて十分に目標に到達している場合：Aとする。配点は概ね、授業中の取組35点、提出物の内容35点、試験レポートの内容30点とする。追試・再試は行わない。

教科書・参考書等

「それから」「人間失格」「つぐみ」以外の授業中に読むテクスト（原作の文章）及び資料は印刷して配布するが、図書館で借りるか文庫本を書店で購入することを勧める。
また、作家の伝記的内容については、新潮社「文豪ナビ」シリーズが廉価で入門者向きである。